



# Sailing Ahead

## 2026年1月

✿ みなさま、新年あけましておめでとうございます！✿

新しい年が新鮮な活力をもたらし、2026年もPIANCにとり活動的でエキサイティングな年となると考えています！

2月初旬には定例のキックオフとなるPIANC執行委員会(理事会)を開催、今後の戦略的方向性を定め、グローバルなコミュニティ全体での優先課題の調整・共有を図ります。もちろん、英国・ハル開催のPIANC年次総会(AGA)2026の準備も進めており、初となるPIANC北海会議(North Sea Conference)との同時開催を企画しています。参加登録も受付中([Registration is now open](#))です。大勢の参加者のみなさまとお会いできることを楽しみしております！

また、10月のPIANC執行委員会(理事会)と共同開催されるブラジル・リオデジャネイロにて開催のPIANCアメリカ2026にも期待しています。本イベントでは、地域内外の専門家が一堂に会し、知識共有、パートナーシップ強化、海上・水上インフラの最新の発展への取り組みなどの貴重な機会を提供するものです。

もちろん、PIANCの中核的な活動の多くは、引き続き着実に裏方で進行中です。多くのワーキンググループ(WG)では大きな進展があり、幾つかのWG報告書が完成に向けて前進しています。ご期待ください！

さらなる国際協力、知識共有、そしてPIANCコミュニティ全体に及ぶ波及効果が期待される一年となることを楽しみにしています。

## PIANC自然との協働(The Working with Nature Award)への応募申請！



持続可能なインフラのリーダーの皆様へ！

この国際的な賞は、自然プロセスとの協働・共生のための統合的なアプローチを示し、港湾・水路インフラと環境の双方が恩恵を受ける優れた水上交通インフラ・プロジェクトを表彰するものです。

### 応募するメリット・理由

- 水上交通インフラにおける革新的かつ環境に優しいアプローチの国際的認知の獲得
- 持続可能な取組みのアピール
- 応募プロジェクトを先例とする他プロジェクトの鼓舞

応募プロジェクトが認定証(Certificate of Recognition)を獲得している場合は、2028年PIANC世界航路会議(the PIANC World Congress)において、本賞の候補として選考されます。

### 応募資格

自然との協働・共生を具現化する完了又は継続中の水上交通インフラ・プロジェクトは応募資格があります。

詳細情報および貴方のプロジェクトの応募・審査申請については、PIANCウェブサイトをご覧ください：

<https://www.pianc.org/award/working-with-nature-award/>

(応募等に係る本部ウェブサイトの「仮訳(一部)」[8頁参照](#))

電子申請はここから↓

[Working with Nature Award Application Form - Pianc](#)

今後のPIANCイベントにご参加ください！

PIANC 「北海」会議及び年次総会2026  
PIANC NORTH SEA CONFERENCE & AGA 2026  
2026年5月11日 – 15日

PIANC 第11回COPEDEC 2027  
PIANC-COPEDEC XI  
2027年2月21日 – 26日



会議ウェブサイト開設・参加登録受付中！

[参加登録 ここから！](#)

第1回お知らせダウンロード [ここから！](#)  
または ウェブサイト参照(下記クリック)

[ウェブサイト ここから！](#)

## PIANC委員会からのニュース

### 海港委員会(MarCom)からのニュース

PIANC海港委員会(MarCom) WG 248 – ‘船舶への陸上給電ガイドライン(Guidelines for Onshore Power Supply (OPS) for Ships)’の進捗最新情報



2025年10月後半, WG248の委員はバルセロナ港にて対面会議を開催しました。今回の会議では、(WG成果物となる)ガイドラインの主要な構成要素を精緻化すべく、建設的な議論促進、委員間の連携強化が図られました。

本会議には、コンサルタント企業、港湾管理者当局、船級協会、行政機関、船主協会、学術機関の代表委員からなる世界中から集結した多様な専門家グループが

参加しました。

本WGの共通目標：船舶の陸上給電(OPS)の技術面・規制面・運用面の課題に対応すること、持続可能な海上交通インフラを支える実用的かつ先見的な枠組みを構築することです。

今後の見通しとして、本WGは2026年2月のアテネにて開催予定の対面会議の準備を進めており、国立アテネ技術大学(NTUA, National Technical University of Athens)造船工学・海洋工学院(NTUA, School of Naval Architecture and Marine Engineering)が主催する予定です。この次回のハイブリッド形式セッションは、各委員の集中的なワークショップ参加、ガイドラインの各セクションの発展、最終成果物に向けた次のステップに係る合意形成を図る貴重な機会となります。このアテネ会議はガイドライン策定を推進する上で重要な節目となる見込みです。

海港委員会(MarCom)WG248およびその取り組みに関する詳細は、PIANC公式ウェブサイトをご覧ください。

Fauzan Zulkhepli  
PIANC WG248議長

## PIANC海港委員会(MarCom) WG 213ウェビナー ‘海上多目的ターミナルの設計ガイドライン(Design Guidelines for Marine Multi-purpose Terminals)’

PIANC MarCom WG 213: Design Guidelines for Marine Multipurpose Terminals

DATE 12 February 2026 11:00-12:00 (UTC+3)

Design Guidelines for Marine Multipurpose Terminals (MPTs)

This state-of-the-art report offers detailed technical guidance for planning, designing, and operating marine terminals capable of handling a broad mix of cargoes and vessel types.

The keynote speaker **André Menien** is a French Engineer specialized in the Ports & Inland Waterways. He is a free-lancer and Transport Consultant at the World Bank since 2021. He co-chaired the WG 213 on Marine Multipurpose Terminals.

His speech will take 30 minutes, and another 30 minutes is followed for Q&A session.

REGISTER HERE  
<https://bit.ly/4pXdbqQ>

www.pianc.org

2026年2月12日11時(世界標準時(UTC)+3=日本時間  
2月12日17時より開催)

左記リーフレット仮訳は  
[9頁参照](#)

本WG報告書の刊行時の  
本部プレスリリース資料  
の仮訳は[10頁参照](#)

## PIANCコミュニティからのニュース

各国部会や各国支部からの活動実績報告や今後のイベントの共有のお知らせ



PIANC 豪州・ニュージーランド部会からのニュース

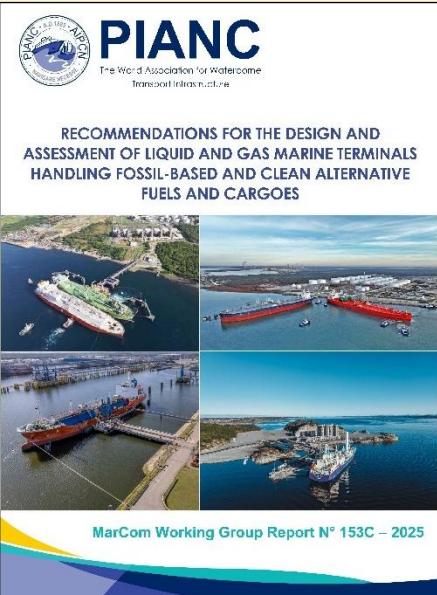
[豪州・ニュージーランド部会の2025年実績など](#)



ペルーがPIANC資格会員(Qualifying Member)に  
2025年末、ペルーがPIANCの48番目の資格会員として加盟したこ  
とを心より歓迎いたします！今後の協力関係を楽しみにしてお  
ります！

## 出版物

### 最新の発刊



以下の報告書が2025年12月に出版されました。

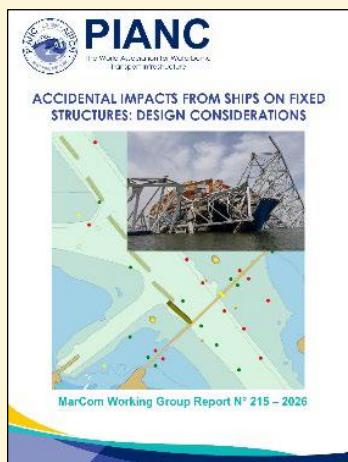
PIANC WG 153c(海港委員会(MarCom))：‘クリーン代替燃料および化石燃料ベースの貨物を扱う海上液体・ガス terminal の設計および評価に関する提言(Recommendations for the Design and Assessment of Liquid and Gas Marine Terminals Handling Fossil-Based and Clean Alternative Fuels and Cargoes)’

[PIANC会員は無料ダウンロード！](#)

[ウェブショップからの購入！](#)

本WG報告書の刊行時の本部プレスリリース資料  
の仮訳は[11頁参照](#)

### 近日発刊



次の報告書は2026年2月に発刊予定です。

PIANC WG 215(海港委員会(MarCom))：‘固定構造物と船舶の衝突の影響：設計上の考慮事項(Accidental Impacts from Ships on Fixed Structures: Design Considerations)’

## PIANCとマイクを共有しよう

PIANC振興委員会(ProCom)は、定期的または準定期的なPIANCポッドキャスト開発に向けた既設のプラットフォームまたはショーケースを模索しています。ポッドキャストは、権威ある国際的専門機関としてのPIANCブランドの確立、PIANC会員への個人的なつながりの一層の創出、PIANCの多くの報告書や多様な活動の周知の拡大の可能性があります。このような取組みの最も簡単な方法は、既存のポッドキャスト・プログラムへの参加です。

PIANCや、PIANCの数多くの有意義な報告書・活動について紹介する機会につながるプログラムやポッドキャスト・ホストをご存知の場合は、詳細な協議のため連絡先または紹介情報を Leen Weltens および Helen Brohl ([wgsupport@pianc.org](mailto:wgsupport@pianc.org)) までご連絡ください。

以下はPIANCのプラチナパートナーです：



ソーシャルメディアでPIANCをフォローしてください：



ニュースレターのご購読をご希望ですか？ メール設定は [こちらから](#)

PIANC公式サイト：<https://www.pianc.org/>  
PIANC会員になるには（右記、日本部会へご連絡を） [info@pianc-jp.org](mailto:info@pianc-jp.org)

<https://www.pianc.org/join-pianc/>



## PIANC自然との協働賞 (Working with Nature (WwN) Award)

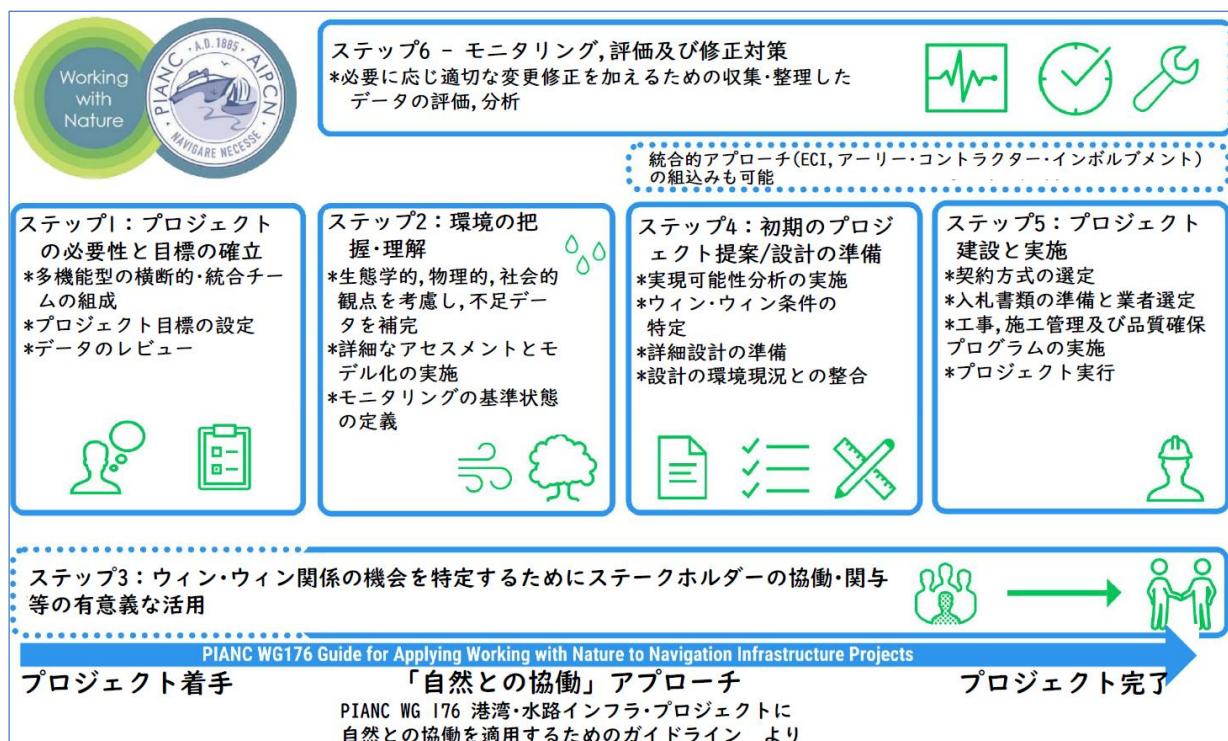
「自然との協働・共生」は、持続可能な港湾・水路インフラプロジェクトにおける積極的かつ統合的アプローチを推進するPIANCの国際的イニシアチブです。2008年以降、世界中で「自然との協働・共生」の理念を取り入れた数多くの港湾・水路インフラプロジェクトの開発がされてきました。PIANCはこうしたプロジェクトを表彰、認定証を授与することでその取組みを称えたいと考えています。



### WwNのフレームワーク(PIANC WG176報告書第4章(無償・公開部分)より抜粋)

WwNでは、港湾・水路の開発・拡張、成長に係るプロジェクト目標の達成のため、設計段階にてサイト固有の生態系特性の考慮を推奨しています。理想的には、WwNでは設計着手前からのプロジェクト目標の策定への組込みを含んだ完全統合されたアプローチを必要とします。WwNはプロジェクトのほぼ全段階において実施可能ですが、構想・設計・実施の初期段階にて導入することが環境に好影響をもたらす機会として有望です。設計プロセスの後期段階でWwNの概念を導入しても通常より大きな労力を必要とし、プロジェクト着手時ほどの効果は期待できない場合があります。

2011年のPIANCポジションペーパーで確立したアプローチと、WG報告書によりプロジェクトのライフサイクルは、下図のステップで構成されます。



### 自然との協働賞(2019-2024期間)受賞者(PIANC本部ウェブサイト発表資料より抜粋)

- 1位：浚渫土の有効活用と生態系ツールによる生息地回復(Recovery of Habitats Beneficial Use of Dredged Materials and Bio-tools), Huelva港湾管理者, スペイン
- 2位：ハンコック郡・干潟生息域海岸とパール川維持浚渫(Hancock County Marsh Living Shoreline and Pearl River Maintenance Dredging), Anchor QEA Inc. 社, 米国
- 3位：マデイラ川航行改善計画調査(Madeira River Navigation Improvement Planning Study), 米国陸軍工兵隊・ブラジル

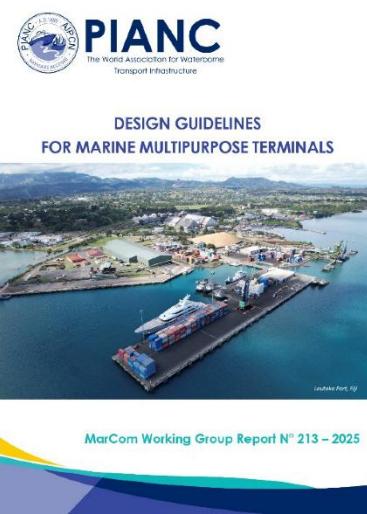


## PIANC海港委員会(MarCom) WG 213ウェビナー・リーフレット(仮訳)

‘海上多目的ターミナルの設計ガイドライン(Design Guidelines for Marine Multipurpose Terminals)

PIANC海港委員会(MarCom) WG 213:海上多目的ターミナル設計ガイドライン ‘Design Guidelines for Marine Multipurpose Terminals’

**日 時** 2026年2月12日 11:00-12:00 (UTC+3)  
2026年2月12日 17:00-18:00 (日本時間)



### 海上多目的ターミナル(MPTs) 設計ガイドライン

この最先端の報告書は、幅広い貨物品目と各種の利用船舶が利用する海上ターミナルの計画、設計、運営に関する詳細な技術的ガイダンスを提供するものです。

基調講演者のAndré Merrie氏は、港湾・内陸水路を専門とするフランス人技術者です。

2021年よりフリーランスとして活動、世界銀行の交通・運輸コンサルタントを務めています。海上多目的ターミナルに係るWG(WG213)の共同議長を歴任しました。

講演時間30分、続いて質疑応答セッション30分です。

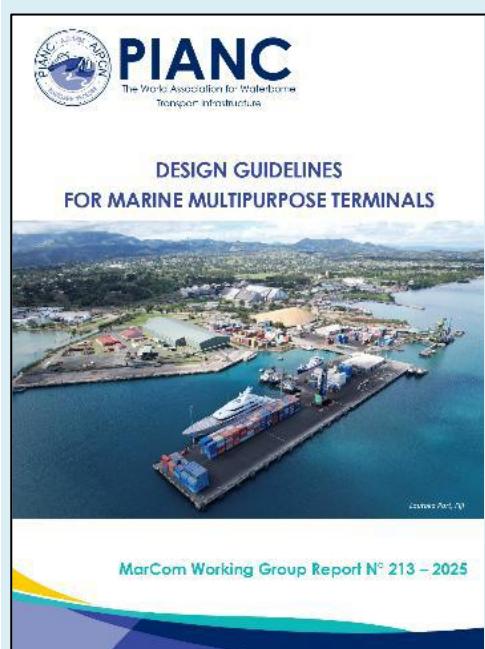
MarCom Working Group Report N° 213 - 2025



参加登録はこちら  
<https://bit.ly/4pXdBqQ>



左記のQRコードによる登録またはご氏名・所属機関を  
e-mailで送ってください [contact@dilovas.com](mailto:contact@dilovas.com)



プレスリリース

2025年10月1日

‘海上多目的ターミナルの設計ガイドライン  
(Design Guidelines for Marine Multi-purpose Terminals)’

海港委員会(MarCom) WG 213

価格：非会員 280ユーロ／会員 無料 (163頁)

<https://www.pianc.org/publication/design-guidelines-for-marine-multipurpose-terminals/>

PIANCの海上多目的ターミナルの画期的なガイドラインを刊行。国際航路協会(PIANC)は、ワーキンググループ(WG)213レポート「海上多目的ターミナル(MPT)設計ガイドライン」の発行を発表します。

PIANC海港委員会(MarCom)所属の国際的な専門家チームが作成した本報告書では、幅広い貨物品目と船舶タイプに対応可能な海上ターミナルの計画・設計のための詳細な技術的ガイダンス(指針)を提供する最先端の成果です。

世界貿易の多様化に進展、持続可能性が一層重要性を増す中、多目的ターミナルは効率的で適応性に富み包括的な海上交通を支える不可欠な役割を果たしています。この包括的な報告書は、特に経済的に、かつインフラ分野で変革期・移行期にある地域において、最新の技術的ガイダンス(指針)のニーズの高まり応えるものです。

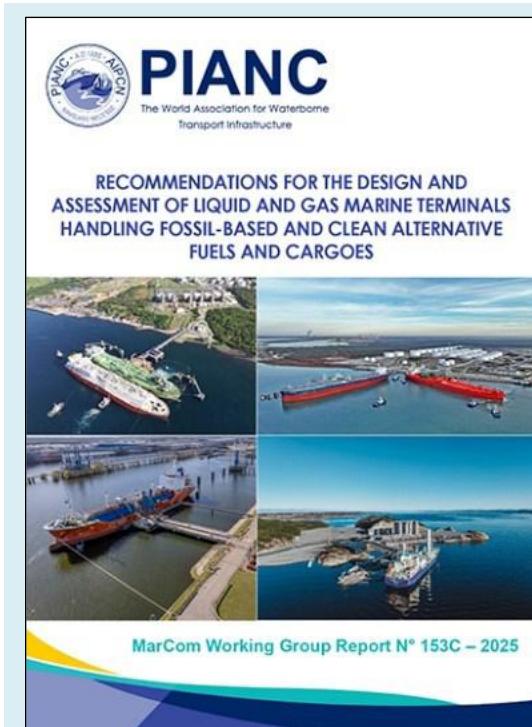
本報告書では、以下の事項を含む幅広いトピックを扱っています：

- 機能上の要件、立地選定、バース設計を含むターミナル配置計画やマスター・プラン計画
- 荷役システム、保管・貯蔵施設、陸上とのアクセス・接続等のインフラと設備
- 国際基準、グリーンエネルギーの実用、気候変動への強靭性等を重視した安全面、セキュリティ面、環境面の考慮事項
- 変動する貨物量や船舶サイズに対応可能な運用上の柔軟性
- リスク分析や官民連携(PPP)モデルを含む制度的・財政的な枠組み

技術的観点の章に加えて、本報告書は、Cape Verde、カンボジア、フィジー、スペイン、パプアニューギニア、フォークランド諸島の港湾における実例ケーススタディも記載し、多様な条件下での多目的ターミナル(MPT)の整備開発や適用に関する実践的知見を読者に提供します。

特に重要なのは、貨物量が限られ、インフラ面の制約がある移行国においては、時間の経過とともに進化可能な多目的ソリューションが求められる点です。WG213では、運用効率性のみならず経済的な妥当性と環境面の責任を兼ね備えたターミナル建設の重要性を強調しています。

本報告書は、海上インフラ開発に携わる港湾計画担当者、港湾技術者、コンサルタント、政府機関、開発機関にとって不可欠な資料です。



## プレスリリース

2025年12月17日

‘クリーン代替燃料および化石燃料ベースの貨物を扱う海上液体・ガスターミナルの設計および評価に関する提言(Recommendations for the Design and Assessment of Liquid and Gas Marine Terminals Handling Fossil-Based and Clean Alternative Fuels and Cargoes)’

海港委員会(MarCom) WG 153C

価格：非会員 431ユーロ／会員 無料（421頁）

<https://bit.ly/3MGkP4M>

PIANC WG報告書153Cは、液体・ガス貨物及び燃料を取扱う全世界の海上ターミナル設計に関する決定的かつ包括的なガイドラインです。石油・ガス・クリーン燃料の業界における既存の資料を再掲するのではなく、今回の指針・報告書は関連する全ての参考資料を引用しつつ、重要な箇所に必要に応じ指針、考察、知見を追加しています。本報告書は関連業界・産業のために、関連業界関係者によりとりまとめられました。2010年頃に結成した当初のWG(作業部会)は、石油・石油化学ターミナルに特化して、PIANC WG報告書153として2016年に刊行されました。

この当初のWG報告書は、「石油会社国際海事評議会(OCIMF, The Oil Companies International Marine Forum)」との公式な姉妹機関協定の基礎となりました。同様に、より簡易な協力関係が「国際ガスタンカー運航者および基地操業者協会(SIGTT0, The Society of International Gas Tanker and Terminal Operators)」との間で形成されています。

2022年にはPIANC WG報告書153Bとして大幅な改訂版が刊行、LNGおよび浮体式LNGターミナルの海上インフラが組み込まれました。この際の改訂では、浮体式LNGターミナル・インフラに連動する係留船舶の固有要件への対応とともに、この業界の変化と進歩を反映するため第18章の多くを更新しました。例えば、コンセプト選定の情報となる有用なガイダンスを導入しました。

2025年以降も、世界中で数多くの海上ターミナルが開発中で、幅広い範囲で進化を続けるクリーン代替燃料・貨物の取り扱いに対応しています。これまでのWG報告書が主に火災・爆発リスクを伴う貨物に焦点を当てていたのに対し、クリーン代替燃料・貨物に関連するリスクとしては、例えばアンモニアの毒性や液化CO<sub>2</sub>の窒息性などを含みます。

PIANC WG報告書153Cは、急速に進展する業界として、業界全体の合意に基づく指針の必要性という不可欠なニーズに応えるものです。